



平成19年12月期

第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成19年5月8日

上場会社名 サッポロホールディングス株式会社 上場取引所 東 札
 コード番号 2501 本社所在都道府県 東京都
 (URL <http://www.sapporoholdings.jp>)
 代表者 役職名 取締役 社長 氏名 村上 隆男
 問合せ先責任者 役職名 取締役 経営戦略部長 氏名 上條 努 TEL (03) 5423-7407

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (内容) その他有価証券については、3月末日現在の時価で評価しておりますが、減損処理は行っておりません。
 減価償却費については、年度見込額のうち第1四半期までの分を計上しております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成19年12月期第1四半期財務・業績の概況（平成19年1月1日～平成19年3月31日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 記載金額は百万円未満を切り捨てております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年12月期第1四半期	90,196	5.7	△4,771	-	△5,847	-	△3,981	-
18年12月期第1四半期	85,301	△5.8	△4,832	-	△5,483	-	△5,914	-
(参考) 18年12月期	435,090		8,612		5,857		2,338	

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
19年12月期第1四半期	△10.30	-
18年12月期第1四半期	△16.19	-
(参考) 18年12月期	6.38	5.88

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年12月期第1四半期	569,303	116,822	20.5	297.71
18年12月期第1四半期	532,752	103,748	19.5	284.04
(参考) 18年12月期	589,597	113,495	19.2	300.13

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年12月期第1四半期	2,440	△4,826	2,199	8,087
18年12月期第1四半期	△7,877	△3,568	8,350	21,648
(参考) 18年12月期	28,588	△54,414	9,351	8,282

[参考]

平成19年12月期の通期業績予想につきましては、平成19年2月16日に発表いたしました業績予想に変更ありません。

○添付資料

- ・(要約) 四半期連結貸借対照表
- ・(要約) 四半期連結損益計算書
- ・四半期連結剰余金計算書及び連結株主資本等変動計算書
- ・(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書
- ・セグメント情報
- ・生産、受注及び販売の状況
- ・決算補足説明資料

平成19年12月期 第1四半期連結業績の概況

1. 第1四半期の概況

当第1四半期（平成19年1月1日から平成19年3月31日まで）の連結売上高は、前期末から新規連結になったカナダ・スリーマン社の売上と、前年4月に参入した焼酎事業の売上が加わったことにより901億円（前年同期比48億円、6%増）となりました。営業利益につきましては、不動産事業は堅調に推移しておりますが、酒類事業及び飲料事業の季節的な要因による損失額が大きく連結営業損益が47億円の損失（前年同期は48億円の損失）となりました。連結経常損益は58億円の損失（前年同期は54億円の損失）、連結四半期純損益は39億円の損失（前年同期は59億円の損失）となりました。

各セグメント別の概況につきましては以下の通りです。

【季節性要因による影響について】

当グループの業績は、酒類・飲料・外食事業の需要が特に夏に集中することから、大きな季節変動があり、第1四半期においては、売上高が他の四半期と比較して低くなる傾向があります。

【酒類事業】

ビール事業では、ビール・発泡酒・新ジャンルを合計した平成19年通期の総需要が前年比約99%と推定される中、当社は自社の強みを更に強化すべく、「エビスブランドの拡充」、「新ジャンル市場への新商品投入」を軸に、以下のようなマーケティング施策を展開しました。

「エビスビール」は、「エビスでありながらエビスを超えていく」をスローガンに、3月にエビス<ザ・ブラック>を発売するなどして、高いブランド力を維持しながら積極的な施策を打ちました。エビスブランド合計の売上数量は前年同期比で131%となりました。

新ジャンルにおいては、「新感覚のスッキリした味わいを求めるお客様」と「ビールの味わいを手ごろな価格で楽しみたいお客様」の二極化が進んでおり、パイオニアの「ドラフトワン」で「新感覚スッキリ味市場」での優位を揺るぎなくする一方で、2月に「手軽に飲めるビール代替市場」に向けて「うまい生」を発売しました。「うまい生」は発売15日目に、100万函（大瓶換算）を突破し、大好評を博しています。新ジャンルの売上数量は前年同期比で118%となりました。

「サッポロ生ビール黒ラベル」は、今年のブランド方針を「本格“生”のうまさへの原点回帰」とし、1月から広告を一新し、「繁盛店に集う客」がサッポロビールを中心におこなうドラマを描くことで、ロングセラー商品としての本格感、満足感を訴求しています。売上数量の前年同期比は92%でした。

発泡酒は、主力の「北海道生搾り」では、原料へのこだわりに加え、北海道のうまさ感のイメージを訴求しています。売上数量の前年同期比は80%でした。

輸入ビール「ギネス」の売上数量は前年同期比93%でした。

以上により、ビール・発泡酒・新ジャンル合計の売上数量は前年同期比101%となりました。

びん入り低アルコール飲料の人気ブランドである「スミノフアイス」は、20代・30代の若者向けに積極的な広告展開を行ないました。売上数量の前年同期比は124%となりました。

焼酎事業では、「トライアングル」で若年層のユーザーを中心に開拓を図る一方で、本格焼酎では、麦焼酎「和ら麦」、芋焼酎「からり芋」など、「蔵元へのこだわり」「原料へのこだわり」を訴求した商品展開を行ないました。

ワイン事業では、伸長著しい酸化防止剤無添加市場で好評を博している「ポリフェノール／有機酸たっぷり無添加ワイン」に、3月に新たに1.5Lペットボトルをラインアップし、国産ワインの新たな柱へと育成を図っています。輸入ワインでは、イエローテイルをはじめ、ベリンジャー、ラ・キューベ・ミティーク及びスパークリングワインなどのブランド強化を図っています。

以上により、ワイン市場全体が苦戦する中、国産・輸入ワインの合計売上数量は前年同期比106%となりました。

エビスブランドと新ジャンルの売上数量増および品種構成改善などが増益に貢献しました。また、従来より推進している製造原価および固定費の両面におけるコスト削減についても、引続き鋭意取り組んでいます。一方で、価格高騰による原材料費増、積極的な新商品投入に伴う販促費増がありました。

以上の結果、国内酒類事業の売上高は626億円（前年同期比22億円、4%増）、営業損益は、43億円の損失（前年同期は48億円の損失）となりました。

【国際酒類事業】

前期末に新たにカナダ・スリーマン社をグループに加えたことにより、北米市場における当社グループの事業基盤は以前より一段と大きくなっています。

スリーマン社を核としたカナダ市場では、同社の強みであるプレミアム価格帯のビールの更なる拡大を図るとともに、伸長するバリュー価格帯のビールでも積極的な販売活動を行いました。カナダ市場の売上数量は前年同期比106%（前年のスリーマン社を含めた売上数量比）となりました。また、製造コストや販売コスト、諸経費等の効率的な支出を行い、収益力の強化にも取り組みました。

サッポロ USA 社を核とした米国市場では、本年1月に組織の一部変更を行い、全米のチェーン店を担当するナショナル・アカウント・マネージャーを配置し、拡大している組織小売業およびレストランチェーンへの取り組み強化を始めました。業務用市場での樽詰ビール取扱店獲得工作も順調であり、樽詰ビールの売上は対前年3割以上の増加で推移しております。その結果、米国市場の売上数量は前年同期比109%となりました。

また、アジアを中心とした各国への輸出および現地生産についても、新製品の投入等により積極的な事業活動を行いました。

以上の結果、売上高は50億円（前年同期比38億円、324%増）、営業損益は1億円の損失となりました。

【飲料事業】

飲料市場は、昨年に引き続きミネラルウォーターが堅調に伸長し、全国的に温暖な気候も相俟って、総需要は前年同期比104%と推定されます。

ビール事業との初めての協働開発商品であり、ビール原料のホップを使用し、独自の価値観を追求したオンリーワン商品である「サッポロホップ研究所」を発売し、課題であった間口の拡大や新規の得意先を獲得することに成功しました。また、重点健康果実ブランドとして「オーシャンズプレークランベリーオリジナル」を発売し、カテゴリーに於ける市場の独占と拡大を狙い販売促進を図りました。北海道限定でフルマーケティングを展開し発売した缶コーヒー新ブランド「生粋」は、道内主要量販店及び全CVSチェーンに採用され、好調な販売を記録し、今後の可能性に期待が持てる結果となりました。一方で、不二家製飲料の販売一時休止のためと、既存重点商材である「恵比寿茶房」や「がぶ飲み」シリーズの販売が前年を下回ったことにより、全体の売上数量も前年同期を下回りました。

部門横断的な取り組みにより、加工賃や物流費の低減などのコスト削減については計画通り進捗しており、また、販売品種構成や不採算分野の改善も進めておりますが、売上数量減少や一部原材料調達コストの上昇といった減益要因を補うまでには至りませんでした。

以上の結果、飲料事業の売上高は104億円（前年同期比17億円、14%減）、営業損失は10億円（前年同期は8億円の損失）となりました。

【外食事業】

外食業界の既存店は、全業態の合計では増加傾向が続きましたが、ファストフード業態の既存店が高い伸び率となる一方で、酒類売上比率の高い居酒屋業態では引き続き店舗数の増加と既存店の前年割れが続くなど、業態間に違いが生じています。

このような中で当社外食事業は、宴会需要の獲得に注力したことによる客単価の上昇などにより、既存店売上が堅調に推移しました。新規出店としては、「くつ炉ぎ・うま酒 かこいや」を札幌と名古屋に開店したほか、「和食・うま酒 入母屋」を東京に2店開店するなど、計6店舗739坪（前年同期比631坪増）を出店しました。また、地域の拠点店舗である京都と金沢の既存店2店を全面的にリニューアルし、新装開店しました。一方、収益性の低下した2店舗を閉鎖しましたので、第1四半期末の店舗数は199店舗となりました。

以上の結果、外食事業の売上高は61億円（前年同期比2億円、4%増）となりましたが、新規出店を大幅に増加したことに伴う開店経費増により、営業損失は3億円（前年同期は1億円の損失）となりました。

【不動産事業】

不動産業界は、首都圏を中心にオフィスビルの空室率が引き続き低水準で安定的に推移し、賃料水準も都心の大型ビルを中心に上昇基調が続いています。一方、地方都市においては、市況は全般的に停滞が続いているとみられます。

当社においては、このような市場環境の中で、「恵比寿ガーデンプレイス」を主とする賃貸オフィスビルにおいて、設備面・サービス面での機能強化を図りつつ、高稼働率の維持と賃料の増額改定に努めました。

「恵比寿ガーデンプレイス」「サッポロファクトリー」では、各種イベント・フェアの開催やお客様へのサービス向上に努め、「サッポロファクトリー」では一部店舗の改装を実施するなど、集客力の強化と売上の増加に注力しました。

コスト面では、引き続きエネルギー費・人件費・建築費等が上昇傾向にありますが、省エネルギーをはじめとしたコスト削減にも鋭意取り組んできました。

また、不動産開発についても積極的に推進し、3月には学生向け賃貸マンション二棟（仙台市・福岡市）が竣工し、サッポロガーデンパーク周辺土地（札幌市）の開発計画の具体化も進めています。また前年下期に開業した不動産開発物件についても、順調に推移しており本年初より通期ベースで利益貢献をしています。

以上の結果、当期の不動産事業は、前期計上した販売用不動産売却が減少することとなりましたが、不動産開発も加えた不動産賃貸事業の強化により、売上高58億円（前年同期比3億円、6%増）、営業利益16億円（前年同期比1億円、10%増益）となりました。

2. 連結キャッシュ・フローの状況

当第1四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失が60億円となり、売上債権の減少額192億円などの増加要因と未払酒税の減少額102億円、預り金の減少額62億円などの減少要因があり、24億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、48億円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が44億円、無形固定資産の取得による支出が12億円となったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、21億円の収入となりました。これは主に短期借入金による調達227億円、長期借入金による調達40億円がある一方、長期借入金の返済による支出が229億円となったことによるものです。

以上の結果、当第1四半期末における現金及び現金同等物の残高は80億円となりました。

(要約) 四半期連結貸借対照表

区分	前第1四半期末 (平成18年3月31日)		当第1四半期末 (平成19年3月31日)		対前第1 四半期末比	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成18年12月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)		増減 (百万円)	金額 (百万円)
(資産の部)							
I 流動資産							
1 現金及び預金	22,339		8,087		△14,252	8,916	
2 受取手形及び売掛金	48,581		54,336		5,754	73,615	
3 たな卸資産	23,952		26,518		2,566	24,403	
4 その他	14,772		17,681		2,909	21,261	
5 貸倒引当金	△229		△210		18	△224	
流動資産合計	109,416	20.5	106,412	18.7	△3,003	127,972	21.7
II 固定資産							
1 有形固定資産	340,109		355,641		15,531	356,727	
2 無形固定資産	2,170		33,094		30,923	33,349	
3 投資その他の資産	83,860		76,758		△7,102	74,149	
4 貸倒引当金	△2,805		△2,603		202	△2,602	
固定資産合計	423,335	79.5	462,890	81.3	39,554	461,624	78.3
資産合計	532,752	100.0	569,303	100.0	36,550	589,597	100.0
(負債の部)							
I 流動負債							
1 支払手形及び買掛金	26,516		25,901		△614	28,929	
2 短期借入金及び1年 内償還社債	94,911		104,938		10,027	104,007	
3 未払酒税	19,889		28,008		8,118	38,276	
4 その他	77,199		90,017		12,818	97,671	
流動負債合計	218,517	41.0	248,866	43.7	30,349	268,885	45.6
II 固定負債							
1 社債	44,219		49,720		5,501	49,720	
2 長期借入金	91,451		77,531		△13,920	82,305	
3 退職給付引当金	16,631		15,626		△1,005	16,301	
4 その他	58,183		60,737		2,553	58,888	
固定負債合計	210,486	39.5	203,614	35.8	△6,871	207,216	35.2
負債合計	429,003	80.5	452,480	79.5	23,477	476,101	80.8
(少数株主持分)							
少数株主持分	—	—	—	—	—	—	—

区分	前第1四半期末 (平成18年3月31日)		当第1四半期末 (平成19年3月31日)		対前第1 四半期末比 増減 (百万円)	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成18年12月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)		金額 (百万円)	構成比 (%)
(資本の部)							
I 資本金	46,595	8.8	—	—	△46,595	—	—
II 資本剰余金	39,011	7.3	—	—	△39,011	—	—
III 利益剰余金	2,221	0.4	—	—	△2,221	—	—
IV その他有価証券評価差額金	16,607	3.1	—	—	△16,607	—	—
V 為替換算調整勘定	△208	△0.0	—	—	208	—	—
VI 自己株式	△478	△0.1	—	—	478	—	—
資本合計	103,748	19.5	—	—	△103,748	—	—
負債、少数株主持分及び資本合計	532,752	100.0	—	—	△532,752	—	—
(純資産の部)							
I 株主資本							
1 資本金	—	—	53,881	9.5	53,881	50,066	8.5
2 資本剰余金	—	—	46,301	8.1	46,301	42,484	7.2
3 利益剰余金	—	—	4,599	0.8	4,599	10,472	1.8
4 自己株式	—	—	△656	△0.1	△656	△571	△0.1
株主資本合計	—	—	104,126	18.3	104,126	102,451	17.4
II 評価・換算差額等							
1 その他有価証券評価差額金	—	—	13,089	2.3	13,089	11,318	1.9
2 為替換算調整勘定	—	—	△393	△0.1	△393	△276	△0.1
評価・換算差額等合計	—	—	12,695	2.2	12,695	11,041	1.8
III 少数株主持分	—	—	—	—	—	2	0.0
純資産合計	—	—	116,822	20.5	116,822	113,495	19.2
負債純資産合計	—	—	569,303	100.0	569,303	589,597	100.0

(要約) 四半期連結損益計算書

区分	前第1四半期 (自 平成18年1月1日 至 平成18年3月31日)		当第1四半期 (自 平成19年1月1日 至 平成19年3月31日)		対前第1 四半期比	前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)			
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)		増減 (百万円)	金額 (百万円)	百分比 (%)	
I 売上高		85,301	100.0		90,196	100.0	4,895	435,090	100.0
II 売上原価		60,468	70.9		62,787	69.6	2,318	300,121	69.0
売上総利益		24,832	29.1		27,408	30.4	2,576	134,968	31.0
III 販売費及び一般管理費		29,664	34.8		32,179	35.7	2,514	126,355	29.0
営業利益又は営業損失 (△)		△4,832	△5.7		△4,771	△5.3	61	8,612	2.0
IV 営業外収益									
1 受取利息及び配当金	110			165				914	
2 その他	441	552	0.7	164	329	0.4	△222	1,479	2,396
V 営業外費用									
1 支払利息	731			1,053				3,041	
2 たな卸資産廃棄損	107			93				951	
3 持分法による投資損失	187			114				49	
4 その他	178	1,203	1.4	145	1,406	1.6	202	1,109	5,151
経常利益又は経常損失 (△)		△5,483	△6.4		△5,847	△6.5	△363	5,857	1.3
VI 特別利益									
1 固定資産売却益	1			5				69	
2 投資有価証券売却益	—			19				2,221	
3 その他	—	1	0.0	—	25	0.0	23	350	2,642
VII 特別損失									
1 固定資産除却損	99			179				2,519	
2 その他	—	99	0.1	0	179	0.2	80	2,003	4,522
税金等調整前当期純利 益又は税金等調整前 四半期純損失 (△)		△5,581	△6.5		△6,001	△6.7	△419	3,977	0.9
法人税、住民税及び事 業税	156			90				1,728	
法人税等調整額	176	332	0.4	△2,107	△2,017	△2.3	△2,350	△86	1,641
少数株主損失		—	—		2	0.0	2	2	0.0
当期純利益又は四半期 純損失 (△)		△5,914	△6.9		△3,981	△4.4	1,932	2,338	0.5

四半期連結剰余金計算書及び連結株主資本等変動計算書
 四半期連結剰余金計算書

	前第1四半期 (自 平成18年1月1日 至 平成18年3月31日)	
区分	金額 (百万円)	
(資本剰余金の部)		
I 資本剰余金期首残高		39,010
II 資本剰余金増加高		
1 自己株式処分差益	1	1
III 資本剰余金期末残高		39,011
(利益剰余金の部)		
I 利益剰余金期首残高		9,962
II 利益剰余金減少高		
1 配当金	1,826	
2 四半期純損失	5,914	7,741
III 利益剰余金期末残高		2,221

連結株主資本等変動計算書

当第1四半期（自平成19年1月1日至平成19年3月31日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年12月31日 残高 (百万円)	50,066	42,484	10,472	△571	102,451
第1四半期中の変動額					
新株の発行	3,815	3,815			7,630
剰余金の配当			△1,890		△1,890
四半期純損失			△3,981		△3,981
自己株式の取得				△86	△86
自己株式の処分		1		1	3
株主資本以外の項目の第1四半期中の変動額（純額）					
第1四半期中の変動額合計 (百万円)	3,815	3,817	△5,872	△84	1,674
平成19年3月31日 残高 (百万円)	53,881	46,301	4,599	△656	104,126

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合 計		
平成18年12月31日 残高 (百万円)	11,318	△276	11,041	2	113,495
第1四半期中の変動額					
新株の発行					7,630
剰余金の配当					△1,890
四半期純損失					△3,981
自己株式の取得					△86
自己株式の処分					3
株主資本以外の項目の第1四半期中の変動額（純額）	1,771	△116	1,654	△2	1,651
第1四半期中の変動額合計 (百万円)	1,771	△116	1,654	△2	3,326
平成19年3月31日 残高 (百万円)	13,089	△393	12,695	—	116,822

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成17年12月31日 残高 (百万円)	46,595	39,010	9,962	△461	95,107
連結会計年度中の変動額					
新株の発行	3,470	3,470			6,940
剰余金の配当(注)			△1,826		△1,826
新規連結による減少高			△1		△1
当期純利益			2,338		2,338
自己株式の取得				△117	△117
自己株式の処分		4		6	11
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	3,470	3,474	509	△110	7,344
平成18年12月31日 残高 (百万円)	50,066	42,484	10,472	△571	102,451

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合 計		
平成17年12月31日 残高 (百万円)	16,502	△198	16,303	—	111,410
連結会計年度中の変動額					
新株の発行					6,940
剰余金の配当(注)					△1,826
新規連結による減少高					△1
当期純利益					2,338
自己株式の取得					△117
自己株式の処分					11
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	△5,184	△77	△5,261	2	△5,259
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	△5,184	△77	△5,261	2	2,084
平成18年12月31日 残高 (百万円)	11,318	△276	11,041	2	113,495

(注) 平成18年3月の定時株主総会における利益処分項目であります。

(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第1四半期 (自 平成18年1月1日 至 平成18年3月31日)	当第1四半期 (自 平成19年1月1日 至 平成19年3月31日)	前連結会計年度の 要約連結キャッシュ・ フロー計算書 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)
区分	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動による キャッシュ・フロー			
1 税金等調整前当期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△5,581	△6,001	3,977
2 減価償却費	5,465	5,757	21,929
3 退職給付引当金の減少額	△563	△675	△893
4 貸倒引当金の減少額	△127	△11	△273
5 受取利息及び受取配当金	△110	△165	△915
6 支払利息	731	1,053	3,041
7 固定資産売却益	△1	△5	△69
8 固定資産売却除却損	99	179	2,519
9 売上債権の減少額	23,143	19,248	1,655
10 たな卸資産の増減額 (増加:△)	△2,025	△2,137	620
11 仕入債務の減少額	△6,069	△3,014	△5,264
12 未払酒税の減少額	△18,370	△10,263	△514
13 預り金の増減額 (減少:△)	△4,971	△6,216	5,237
14 その他流動負債の減少額	△7,637	△1,327	△1,874
15 その他	8,626	7,748	△195
小計	△7,393	4,167	28,981
16 利息及び配当金の受取額	312	384	882
17 利息の支払額	△731	△875	△3,152
18 法人税等の支払・還付額 (支払:△)	△64	△1,236	1,877
営業活動による キャッシュ・フロー	△7,877	2,440	28,588

	前第1四半期 (自 平成18年1月1日 至 平成18年3月31日)	当第1四半期 (自 平成19年1月1日 至 平成19年3月31日)	前連結会計年度の 要約連結キャッシュ・ フロー計算書 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)
区分	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
II 投資活動による キャッシュ・フロー			
1 投資有価証券の取得 による支出	△422	△34	△947
2 投資有価証券の売却 による収入	0	779	2,776
3 連結範囲の変更を伴う子会 社株式の取得による支出 (純額)	—	—	△31,176
4 有形固定資産の取得 による支出	△1,909	△4,441	△18,516
5 有形固定資産の売却 による収入	5	8	69
6 無形固定資産の取得 による支出	△782	△1,210	△3,299
7 長期貸付金の実行 による支出	△6	△67	△29
8 長期貸付金の回収 による収入	112	104	499
9 その他	△565	35	△3,791
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,568	△4,826	△54,414
III 財務活動による キャッシュ・フロー			
1 短期借入金の増加額	21,300	22,779	30,526
2 長期借入れによる収入	1,000	4,000	9,200
3 長期借入金の返済 による支出	△12,440	△22,952	△48,321
4 社債の発行による収入	—	—	29,885
5 社債の償還による支出	—	—	△10,000
6 配当金の支払額	△1,473	△1,544	△1,831
7 その他	△36	△83	△106
財務活動による キャッシュ・フロー	8,350	2,199	9,351
IV 現金及び現金同等物に係る 換算差額	△4	△9	7
V 現金及び現金同等物の 減少額	△3,099	△195	△16,466
VI 現金及び現金同等物の 期首残高	24,748	8,282	24,748
VII 新規連結に伴う現金及び現 金同等物の増加額	—	—	0
VIII 現金及び現金同等物の 期末残高	21,648	8,087	8,282

セグメント情報

(事業の種類別セグメント情報)

摘要	前第1四半期 (自 平成18年1月1日 至 平成18年3月31日)							
	酒類事業 (百万円)	飲料事業 (百万円)	外食事業 (百万円)	不動産事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	61,646	12,159	5,906	5,527	60	85,301	—	85,301
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,110	30	—	611	4	1,756	(1,756)	—
計	62,757	12,190	5,906	6,138	64	87,058	(1,756)	85,301
営業費用	67,573	13,030	6,094	4,619	70	91,388	(1,254)	90,133
営業利益又は営業損失(△)	△4,815	△840	△188	1,519	△5	△4,330	(502)	△4,832

摘要	当第1四半期 (自 平成19年1月1日 至 平成19年3月31日)							
	酒類事業 (百万円)	飲料事業 (百万円)	外食事業 (百万円)	不動産事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)	
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	67,761	10,431	6,161	5,841	90,196	—	90,196	
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,356	29	—	649	2,035	(2,035)	—	
計	69,118	10,460	6,161	6,490	92,231	(2,035)	90,196	
営業費用	73,631	11,541	6,474	4,813	96,461	(1,493)	94,967	
営業利益又は営業損失(△)	△4,513	△1,080	△312	1,677	△4,229	(541)	△4,771	

摘要	前連結会計年度 (自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日)							
	酒類事業 (百万円)	飲料事業 (百万円)	外食事業 (百万円)	不動産事 業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	326,419	58,730	26,995	22,827	116	435,090	—	435,090
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	6,129	313	—	2,675	6	9,125	(9,125)	—
計	332,549	59,044	26,995	25,502	123	444,215	(9,125)	435,090
営業費用	328,365	59,471	26,538	19,089	118	433,581	(7,104)	426,477
営業利益又は営業損 失(△)	4,183	△426	457	6,413	5	10,634	(2,021)	8,612
II 資産、減価償却費、 減損損失及び資本的 支出								
資産	350,890	16,590	13,960	192,874	—	574,316	15,280	589,597
減価償却費	13,472	285	647	7,522	0	21,929	—	21,929
減損損失	1,659	—	125	—	—	1,785	—	1,785
資本的支出	20,224	1,019	1,108	8,437	—	30,790	—	30,790

(注) (1) 事業区分の方法は、日本標準産業分類を参考にし、各事業の営業内容の類似性により区分しております。

(2) 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
酒類事業	ビール・発泡酒等・ワイン・ウイスキー・焼酎他・物流・プラント
飲料事業	飲料水
外食事業	ビヤホール・レストラン
不動産事業	不動産賃貸・不動産販売・商業施設運営・ユーティリティ供給・スポーツ施設 運営

(3) 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、前第1四半期504百万円、当第1四半期569百万円、前連結会計年度2,118百万円であり、これは、当社で発生した費用であります。

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第1四半期における酒類事業の生産実績を示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高 (kl)	前年同期比 (%)
酒類事業 (ビール・発泡酒等)	195,212	17.7
酒類事業 (ワイン・焼酎等)	10,795	140.0

(2) 受注実績

当社グループ (当社及び連結子会社) ではほとんど受注生産を行っておりません。

(3) 販売実績

当第1四半期における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高 (百万円)	前年同期比 (%)
酒類事業	67,761	9.9
飲料事業	10,431	△14.2
外食事業	6,161	4.3
不動産事業	5,841	5.7
計	90,196	5.7

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。